

ハグロトンボ

Calopteryx atrata



< 生物の写真 >



< 環境写真 >

分類群	魚類	貝類・甲殻類	爬虫類・両生類	昆虫類
種の特性	絶滅危惧種	危急種	希少種	外来種
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸
			東海	近畿
				中国・四国
				九州
				沖縄

【分布】

本州、四国、九州に分布し、青森県や九州南部では産地が限られる。離島では粟島、佐渡島、淡路島、隠岐、杣岐、対馬、五島列島、天草諸島、甕島列島の下甕島、種子島、屋久島などに分布する。

【名前の由来】

和名の「ハグロトンボ」は翅が黒いことに由来すると思われがちであるが、実際には婦人が歯を黒く染めた「お歯黒」に似た翅の色から「オハグロトンボ」と呼ばれていたことに由来する。また、歯を黒くすることを「鉄漿つけ（かねつけ）」といったので「カネツケトンボ」と呼ぶこともある。

ほかにもゴクラクトンボ、ホトケトンボ、カミサマトンボなどの呼び方がある。

【形態的な特徴】

体長は 60mm（腹長 雄:42～52mm、雌:40～48mm。後翅長 雄:35～42mm、雌:36～44mm）ほどである。翅が黒いのが特徴で、雌雄とも翅に縁紋をもたない。体色は雄が全体に黒く、腹部背面が金属緑色であるのに対し、雌は黒褐色となる。よく似た種類として、本種と同じように翅が黒いアオハダトンボがいる。

幼虫は体長 22～26mm ほどの淡褐色から淡緑褐色をした細いヤゴである。

【生態的な特徴】

成虫は5月から10月頃まで見られ、とくに7月から8月に多い。幼虫は、おもに夜半から早朝にかけて、[挺水植物](#)などに[定位](#)して羽化する。羽化後の未成熟個体は暗がりを好み、水域から離れて林床で生活する。成熟すると再び水域に戻り、比較的明るい岸边や流れの中の石、流れに浮かぶ植物などに止まり縄張りを張る。交尾後、雌は単独で水面近くの水の中植物の生体組織内に産卵する。極めてまれに潜水産卵をすることがある。

【生息環境】

おもに平地から低山地のヨシやミクリなどの[挺水植物](#)や、エビモ、バイカモ、セキショウモなどの沈水植物が繁茂する緩やかな流れに生息する。幼虫は水生植物の繁みの中で植物につかまって生活している。

【生息状況】

青森県や九州南部では産地が少ないものの、かつては全国各地で普通に見られた。しかし、やや暗い林地に接した、水生植物の繁茂する安定した流水が減少しているため、その数を減らしている。

【生態系保全のための留意点】

生息環境の条件として、水辺に水生植物が繁茂していることや流れが緩やかなこと、水域から少し離れた範囲内に未成熟時を過ごせる薄暗い林床があることなどが挙げられる。